

## 県外派遣報告書（群馬全中）

令和2年9月5日

報告者：水間光亮

大会名：全国中学校体育大会第51回全国中学校バスケットボール大会

会 場：高崎アリーナ・ALSOKぐんまアリーナ

期 間：令和3年8月19日～令和3年8月21日

8月17日 審判会議・大会前研修（WEB）

8月18日 開催地（群馬入り）

8月19日 グループリーグ

8月20日 決勝トーナメント（1回戦～準々決勝）

8月21日 決勝トーナメント（準決勝・決勝）

### ◆審判会議・大会前研修（WEB）◆

・審判会議

①開催権審判長挨拶（小澤朋克 氏）

②日本バスケットボール協会審判長挨拶（宇田川貴生 氏）

③大会の注意事項及びJBA派遣審判員紹介（U15担当 加藤暁生 氏）

・大会前研修

①インテグリティについて（宇田川貴生 氏）

②群馬全中成功に向けて（加藤暁生 氏）

・処置ミスゼロ

・トラベリング

・FUL・ショットの見極め

・RFG（Respect for the Game）（含インテグリティ）

・TOクルーとの連携

・マンツーマンルールについて

・メディカルタイムアウトについて

③諸連絡

◆グループリーグ◆

【8月19日 グループリーグTDコート 第2試合】

メリノール（東海1位）VS 前橋五（関東3A）

CC：松本 成生（山口A級） U1：水間 U2：片山 峻（京都B級）

【PGC】：①パンフレットを用いりチーム情報の共有

②松本氏の中国大会の映像を用いてゲーム中起こりそうな現象の確認。

【MTG（クルーMTG）】

1ゲーム通してクルーでコミュニケーションを取れたゲームでしたので、大きな処置ミスなく進められたゲームでした。

その中で、選手が判定に納得がいかず、ボールをコートに叩きつける行為に対し、warningを行った際、プレイヤーに対するwarning・ベンチに対するwarningを1人で行ってしまった。Crew workとして、warningを分担して行うことによりゲームをよりスムーズに進めることができた。また、なぜwarningを行ったのかということをも2人のレフリーは把握していたが、1人のレフリーは把握していないままゲームを進行している状況でしたので、3人で共有しておくべきだった。

【8月19日 グループリーグTDコート 第5試合】

八雲（北海道2位）VS 松陰（関東1）

CC：眞榮喜 工（本部） U1：水間 U2：片山 峻（京都）

【PGC】：①トラベリングについて

②審判会議で

③・処置ミスゼロ・FUL・ショットの見極め

・RFG（Respect for the Game）（含インティグリティ）

・TOクルーとの連携・マンツーマンルールについて

・メディカルタイムアウトについて

【MTG（クルーMTG）】

PGCで①トラベリングについて3人が同じ基準で吹いていく。②Wで笛が鳴った場合、必ずホールドしてアイコンタクト→プライマリーを保持するレフリーがコールへ行く。という2つの約束事をクルーで決めました。1Qからトラベリングをしっかりと判定していきゲームのテンポセットをしっかりとできた。前半のうちでトラベリングの基準を示したことで、プレイヤー・ベンチもしっかり基準に対応してくれた。また、トレイルのエリアからのドライブがおき、最終的なプライマリーがリードのプレーをトレイルからコールが起きたプレーに関して、リードの自分はクロスステップをし、アングルを確保しようとしたか見えずノーコールというのかノイズとして残ってしまった。アドバイスとして、「見えないものは、他の2人のレフリーが見てるから大丈夫」というアドバイスをいただいた。

【8月20日 決勝トーナメントTDコート 女子1回戦】

高崎箕郷（開催地）VS 松徳学院（中国1）

CC：田中 充（北海道） U1：古見 高広（TO・本部） U2：水間

【PGC】・メカ等の確認

・昨日のゲームで起きたTO関連の確認

【MTG（クルーMTG）】

・1ゲーム通して、大きなミスなくゲームを進行できたゲームでした。

その中で、前半で片方のチームがベンチに帰ってきたプレイヤーに対し怒鳴って指導した。

それに対し、しっかりwarningをしたことでベンチの管理ができた。しかし、もう片方のチームのベンチのアピール（質問形式でアピール）が執拗にあったので、そのアピールに対しどう対応するかが課題となりました。難しい処置になりそうな場面も、3人で集まり情報の共有等できたので処置ミスゼロでゲームを終えることが出来た。

【全体を通して感想】

初めての全中に参加させていただき、大変学ぶことが沢山ありました。

- ①メカのベーシックの徹底。メカをスムーズに行うことによりよりいい位置で判定をすることができ、判定に関して説得力が出てきます。
- ②バイオレーションやファール等については、3人が同じ基準で吹き続ける。全員がしっかりと同じ基準で吹き続けることで、プレイヤー・ベンチに対しこのゲームの基準というのを示せて、ゲームが進行しやすくなる。トラベリング等は、テンポセットでしっかり取り上げていく必要がある。（過度に敏感になる必要なし。明らかなもののみ）
- ③プレゼンをする際、顎が下がり目線が下がって自信無さそうに見える。加藤暁生 氏よりアドバイスをいただきました。無意識のうちに目線が下がってるのが映像で確認できた。目線を上げてプレゼンするは意識して取り組んでいきたい。

インターハイ予選から取り組んでいる、メカを常にベーシックに、タイマーの管理、プライマリー・アングルという点に関し、しっかりできたので大きなミスなく3試合吹くことができた。今後も、継続して取り組んでいきたいと思えます。

最後になりますが、コロナ渦の中大会を開催していただき感謝いたします。

大会運営してくださいました、群馬県の方々、大会参加に当たりご配慮いただきました原田審判長はじめ、鹿児島県バスケットボール協会の皆さまに心から感謝申し上げ、本大会の報告とさせていただきます。